



より良い学童保育とは

指導員学校・合宿研修会

岩手県学童保育連絡協議会は8月30、31の両日、第53回指導員学校・第35回合宿研修会を釜石市の釜石市民ホールTETTOで開催しました。岩手県内の学童保育の保護者、指導員ら227人が参加。1日目は分科会、2日目は全体会と講演が行われ学び合い、交流を深めました。

1日目は6つのテーマで分科会を開催しました。このうち、「子育てでつながる学童保育」をテーマにした第6分科会には21人が参加。滝沢市ひかりの森学童クラブの水本真美先生のレポートの後、参加者全員が保護者会活性化の取り組みや課題について発言し、交流しました。参加者からは「コミュニティーが小さく保護者との交流に苦労している」、「保護者の参画に温度差がある」といった率直な悩みも聞かれた一方、「保護者には役員が研修参加のどちらかをお願いしている。保護者もはじめてのことは怖いし、やりたくない。そこをフォローしながらやってみると続いていくことが多い」という工夫も聞かれました。埼玉県から参加した真田祐さん（元全国連協職員）は「どの子も学童保育が大好きになるようにするのが指導員の仕事。まずは子ども一人一人を大切に作る保育、学童保育をつくっていく、自分の子が喜んで通っていると親は何かあったら協力したくなるものではないか」と、指導員の保育実践に期待しました。

2日目は全体会を開催。阿部勝県連協会長が「新制度で学童保育は市町村事業となったが、市町村の姿勢によ

って格差が生じている。この研修会で交流し、学び合うことで学童保育をより充実させていこう」とあいさつ。来賓の平松福壽釜石市副市長が「当市でも小学生の約半数が学童保育を利用しており、必要不可欠な施設となっている。この研修会が、県内の指導員、保護者の皆さんが一丸となって子どもを育てるという機運を高めるものになることを期待している」とあいさつしました。続いて、分科会報告が行われ、第1分科会から第6分科会の代表者が発表を行いました。

続いて行われた全体講演では、山形県山形市指導員の山川美江さんが「みんなでつくる学童保育」と題して講演。子どもたちを取り巻く環境の変化や、学童保育の歴史や制度に触れながら「子どもは安心感のある生活のなかでゆっくり育っていく」と述べ、「子ども一人ひとりが充実した生活を送ることができるよう保護者と指導員が力を合わせていくことが大切」と述べ、保護者、指導員がともに学童保育の生活をつくっていくことの大切さを伝えました。分科会報告の主な内容は次のとおり。

第1分科会 学童保育ってなに？

1年生の子どもを預けている保護者で、初めて研修会に参加した。分科会で他の学童の先生方の話も聞き、あらためて大変な仕事だなと思った。人に対応する仕事の難しさを感じた。指導員の皆さんには、どうか病まないように、がんばってほしい。

（花巻市・保護者 佐々木 敬奨）



第2分科会 学童保育の生活づくり

生活づくりの分科会で、埼玉県の左治木先生を講師に実践記録について学んだ。子どもの気持ちに気づくこと、信頼関係を築き本気で話せる大人になることが大事だと学んだ。記録を書くことで専門職としての仕事を自覚すること、書くことで子どもの変化に気づくことを教えていただいた。

(北上市・指導員 小納 恵理子)

第3分科会 子どもと遊び

子どもと遊びについて理解を深めた。ほいく誌の記事を読んだあと、実際に参加者が体を動かして遊びを体験し、交流が深まった。子どもたちと遊びを楽しむことで信頼関係がつけられること、遊びのパワーを知ることができた。

(陸前高田市・指導員 出羽 早苗)

第4分科会 子どもの気持ちを高めるペップトーク

ペップトークで子どもへの声かけについて学んだ。なるべくネガティブな言葉を使わない、同じ内容でも短く具体的に伝えることが大切とのこと。大事なことは子どものことを本気で考えているかどうかという講師の先生の言葉が印象的だった。

(盛岡市・指導員 松田 杏子)

第5分科会 食物アレルギーのある子どもへの対応

アレルギーのある子どもへの対応を学んだ。乳幼児期の皮膚疾患が大きく影響すること、睡眠が大事などの基本的なことから、気を付ける食材や細かな症例も教えていただいた。学童だけでなく、保護者、医療機関、学校との連携が重要ということ。食べることの楽しさを伝えながら、食の取り組みをしていくことの大切さも学んだ。

(盛岡市・指導員 谷津 和幸)

第6分科会 子育てでつながる学童保育

レポート報告で保護者会の実践についての事例を学んだ。参加者の交流の中で共通していたのは、コロナ禍もあり保護者の交流の機会が減っていること、保護者が忙しく積極的に役員を引き受けることが難しくなっているということ。役割を整理するなど、保護者の負担を減らし、参加してもらいやすい仕組みづくりが大事と感じた。

(盛岡市・指導員 澤口 周)



県内各地域からの参加者が続々と集まる初日の受付の様子



前向きな言葉かけの技術を学んだ 第4分科会



保護者会の活性化について意見交流した 第6分科会



県内各地域から約100人が参加した交流会